

ミカン生育情報

千葉県
平成 29 年 12 月号

平成 29 年 11 月の気象

平成 29 年 11 月の半旬別の気象を表 1 に記した。平均気温は、第 4 及び第 5 半旬を除く 4 半旬で平年より高かった。月平均気温は 13.6℃で、平年より 0.4℃、前年より 1.7℃高かった。降水量は、第 1、第 3 及び第 5 半旬では平年より多かったが、その他の 3 半旬では平年より少なく、第 6 半旬では降雨がなかった。月合計は 289mm で、平年の 195%、前年の 155%であった。日照時間は、第 1、第 2 及び第 5 半旬で平年を上回ったが、その他の 3 半旬では平年を下回った。月合計は 156 時間で平年の 108%、前年の 128%であった。

表 1 平成 29 年 11 月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	16.1	15.4	13.3	33	25	20	38	25	22
2	17.4	14.6	11.9	10	34	10	27	25	28
3	14.3	14.0	14.2	90	18	57	23	24	16
4	10.3	12.3	13.1	16	23	54	16	24	26
5	10.4	11.7	9.7	141	22	32	33	24	14
6	12.9	11.2	9.6	0	26	15	19	25	16
平均/計	13.6	13.2	11.9	289	148	186	156	145	122

普通温州の果実品質

果実品質は調査区ごとに見ると、着色は平年並みから早い区が多かった(表 2)。糖度及び酸度は、平年を下回った区が多かった。甘味比は平年を上回った区が多かった。普通温州調査区の平均値は、すべての項目で概ね平年及び前年並みであった。

今年度は浮皮の程度が前年並みで、果肉歩合も前年及び平年並みであった。

一部でカメムシ被害果、軽微なかいよう病に罹病した果実が見られた。また、一部調査区では台風による潮風害の影響で、着色遅延、品質低下があったと推定された。

表 2 普通温州の果実品質^{注1} (平成 29 年 12 月 1 日収穫、翌日調査)

品 種	調査地	着色程度		糖度(Brix)		酸度(%)		甘味比 ^{注2}		果肉歩合(%)	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
大津 4 号	三芳地区	6.4	8.1	9.7	10.0	1.00	0.88	9.7	11.6	77.6	75.3
	千倉地区	7.9	8.7	9.8	10.3	1.01	0.95	9.7	11.0	75.5	75.9
	暖地園研	8.9	7.9	10.4	10.0	0.88	0.91	11.8	11.3	76.4	75.1
青島温州	三芳地区	7.4	7.4	8.9	9.2	0.90	0.94	9.9	9.9	74.0	74.5
	千倉地区	8.8	8.1	9.1	9.8	0.87	0.96	10.5	10.4	74.0	74.3
	暖地園研	8.1	7.7	9.6	9.6	0.83	0.91	11.6	10.7	74.1	75.7
平均	7.9	8.0	9.6	9.8	0.91	0.93	10.5	10.8	75.3	75.1	

注 1) 平年値は平成 9 ~ 28 年の平均値

注 2) 甘味比 = 糖度 / 酸度

果実の生育

果実の生育を表3に示した。果実の大きさは園地・品種により傾向が異なるが、普通温州の縦径・横径の平均値は概ね平年並みである。前回調査から今回調査までの果実肥大量は、平年を上回り、前年を下回った。

暖地園芸研究所内では11月下旬から、鳥類の飛来が多くなった。青かび、緑かび病対策の殺菌剤は早生温州に10月中、普通温州には12月に散布し、果実腐敗や落果は散見される程度であった。

表3 果実の生育*¹（平成29年12月1日収穫、当日調査 川野は12月2日調査）

種類・品種	調査地	横径 (cm)	縦径 (cm)
大津4号	三芳地区	7.7 (104)	5.2 (102)
	千倉地区	7.5 (101)	4.8 (97)
	暖地園研	7.5 (97)	4.7 (90)
青島温州	三芳地区	7.0 (95)	4.8 (95)
	千倉地区	7.0 (95)	4.6 (93)
	暖地園研	7.9 (104)	4.9 (97)
川野夏橙	暖地園研	9.8 (102)	7.7 (101)
平均* ²	普通温州	7.4 (99)	4.8 (97)

注) () の数字は平年値（平成9～28年の平均）を100とした比数

*¹ 各地点の各品種の値は40果の平均 ただし、鳥獣害等により調査果実を変更した樹がある

*² 平均は「大津4号」及び「青島温州」の各地点の値を平均したもの

12月～3月の栽培管理

樹勢の回復 本年も樹によっては過着果になっている樹がある。着果により樹勢の落ちている樹には、収穫後に液肥を散布する。マシン油乳剤散布の際に加用しても良い。

マシン油乳剤の散布 カイガラムシ類とミカンハダニの防除のためにマシン油乳剤（97％）の60～80倍液を散布する。果実収穫後の12～3月の内、厳寒期を避け暖かい日に実施する。ただし、樹勢の弱い樹では散布を避ける。なお、ミカンハダニに対しては、寒害を受けやすい園地や着花量が少ない園地では4～5月に100～200倍液を散布する。防除にあたっては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

防寒対策 気象情報に注意し、適切な防寒・低温対策をとる。強い寒風が樹体に当たるのを防ぐために防風垣や防風ネットを設置する。斜面下部など冷気のたまりやすい場所の防風垣は下枝を切り冷気を逃がす。特に幼木や中晩柑、レモンについては、寒さに弱い傾向があるため、より防寒対策に注意を払うこと。

また、果実は寒害で食味が低下するため、袋掛け等の防寒対策をするか、収穫適期を迎えた果実は寒さに当たる前に収穫する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。
《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>